

学校教育目標	未来へ、よりよく生きる
目指す学校像	一人ひとりのWell-beingを実現する学校
重点目標	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 2 自由の相互承認 自他を尊重する心の育成 3 発達支持的生徒指導によるいじめ防止の推進 4 学校を核とした地域づくりの実践 5 安心・安全の確保 (大規模災害、食物アレルギー、不審者侵入)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和8年2月4日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学びの質の向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査において、調査対象の教科すべてにおいて、全国、市平均と比較して、概ね良好である。 ○生活習慣等調査において、全国、市の回答状況と比較して、概ね良好である。 (課題) ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果分析から、複数の教科で2極化の傾向にあり、個別最適な学習の充実が求められる。 ○個別最適な学びの要素を取り入れた授業の際に「何をしたらいいかわからなかった」等の意見も見られた。	・指導の個別化や学習の個性化による学びの自律化 ・教員の指導力の向上と授業改善による質の高い学びの充実	①課題の設定、解決のプロセス、振り返りの要素を意識した授業を行う。 ②ドリルパークやスタディサプリの活用や、テスト前のチャレンジスクールへの参加をとおして、個に応じた学びを推進する。	①振り返りの時間が十分確保されたとともに、効果的な振り返りについて研究されたか。 ②カリマネデザインマップをもとに、単元ごとに生徒個々の学習の状況を適切に確認するとともに、一人ひとりの取組を評価、承認したか。	①学期ごとに全教員が相互に授業を参観する「授業参観 Weeks」を設け、解決のプロセス、振り返りの要素を意識した授業について学び、実践した。 ②カリマネデザインマップを基に、単元ごとに到達度を定めるとともに、他教科との連携を意識した学びを、多様な学習集団、学習方法により行った。	B	新しい生徒用端末に関する職員研修を充実させ、より効果的な ICT 機器の活用について全校挙げて取り組んでいく。また、カリマネデザインマップを活用して、各教科の単元ごとの配列を意識するとともに、教科の連携による学習指導を充実させ、各教科で学んだ知識を結び付けられるようにする。	・いわゆる学力の二極化については、家庭での学習状況の違いや、学習習慣の差の拡大などの要因もあるが、自分で学習を進められる生徒と、支援を必要とする生徒との間で到達度に差が開くケースもある。個別最適な学びの充実だけでなく、協働的な学びを意図的に組み合わせることが重要である。 ・ICTの活用について、生徒用端末が入替となるが、このことについて周知した方がよい。
			①研究推進委員会が主体とする「自己の課題を見つけ、自らの学びに向かう生徒の育成」に関する研究を実施する。 ②学びの質を高める ICT 機器の活用や学習形態の工夫を実施する。	①計画どおり研究を行い、その成果と課題を職員で共有したか。 ②学校評価 (生徒) の学習に関する肯定的回答の平均値が向上したか。	①研究推進委員会が主体となって研究を行ったが、成果と課題の共有には工夫が必要である。 ②ICT機器の活用は進んでいる。肯定的回答の平均値は大きな変化はなかった。			
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は高い。 ○不登校生徒に対しては、外部機関等を紹介し、連携を図って支援している。 ○いじめ重大事態となった事案が発生している。 (課題) ○学校に登校できない生徒の中で、学校以外の何処とも繋がっていない生徒がいる。	・ICTを活用した生徒指導の推進 ・学校内外の連携に基づく「チーム学校」による生徒指導体制の充実	①生徒指導と学習指導を関連付けたデータ分析や、課題を抱えた生徒の早期発見のために ICT を活用する。 ②不登校生徒への教育機会の確保のために ICT を活用する。	①スクールダッシュボードが効果的に活用され、教員の観察や経験に活用され、適切な支援が行われているか。 ②不登校生徒に対し、オンライン授業や個別の教材等による学習が行われ、適切に評価がされている。	①スクールダッシュボードについては、特に学習指導の活用について、学校としてさらなる研究の余地がある。 ②オンライン授業や個別の教材等により、不登校生徒をはじめとする多様な生徒を、学びにつなげることができている。	B	スクールダッシュボードの活用について研究し、多様なデータを収集し、それらを結び付けることで、より効果的に活用できるようにする。不登校等生徒の学びについては、この状況に応じて引き続き積極的に行っていく。	・学校内に多様な人材、斜めの人材を取り入れることは、多様な生徒を支援する意味で重要なことである。
			①スクールカウンセラーをはじめとする専門職との連携を強化する。 ②不登校等児童生徒支援センター等の外部機関と生徒を適切に繋げる。	①教員や保護者、生徒が、スクールカウンセラー等の専門職と効果的につながり、活用されているか。 ②学校に登校できない生徒は、外部機関等と適切に繋がっているか。	①様々な場面や多様な生徒について、外部の専門職と積極的に繋がることで、早期対応することができた。 ②不登校等児童生徒支援センター等の外部機関とつながる生徒が増えた。			
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○多くの生徒が地域に出ていき、様々な活動を通じて学んでいる。 ○学校運営協議会で、どのような子どもを育てていくのか、どのような地域としていきたいのか熟議を行っている。 (課題) ○学校運営協議会で熟議された内容について、周知不足である。具体的な取組を通じて周知していきたい。	・学校運営協議会を中心とした地域とともにある学校の実現 ・積極的な情報発信と、教育活動参観の機会の設定	①学校運営協議会で何をを目指すのか、どうあるべきかを共通理解したうえで、熟議の結果を具体的な行動とする。 ②生徒の成長を支える当事者であるとの自覚を、教職員、保護者、地域住民がそれぞれ持つように促す。	①さいたま市コミュニティ・スクール成長モデルを活用するとともに、熟議の結果、具体的な行動が行われたか。 ②保護者会や学校だより、会議等で、保護者や地域住民への説明を行うことができたか。	①学校運営協議会では、毎回活発な熟議が行われ、その結果を取り入れた行動、変容が見られた。 ②保護者会や学校だより、会議等以外に、直接地域に赴き本校の様子を発信した。	A	学校運営協議会を学校支援に留めず、地域が繋がっていくきっかけとなるコミュニティ・スクールと前進させるようにする。また、学校運営協議会への生徒の参画をより推進する。	・多くの生徒が地域ボランティア活動していることは素晴らしいことである。現在はボランティア活動当日に生徒は活動するのみだが、今後は地域行事に中学生の声を反映していくことが、子どもたちが地域に愛情を持つことにつながる。
			①学校 HP の適宜更新や、学校だよりの発行等により、学校情報を発信する。 ②適宜学校公開を実施するとともに、地域の方が学校に来る仕掛けづくりを行う。	①積極的な情報発信が行われ、学校評価「情報発信」の肯定的回答が90%以上となったか。 ②保護者や地域住民が来校する機会や仕掛けができたか。	①学校 HP、学校だより以外に、報道機関への情報提供により、学校情報を発信でき、学校評価の肯定的結果は目標を上回った。 ②校舎リフレッシュ工事に伴い、学校公開を実施することができた。			
4	【教育環境の整備に関する取組】 (現状) ○校舎リフレッシュ工事中のため、仮設校舎の使用、敷地内の立入禁止箇所が存在、校庭半分の使用不可等、制限された状況にある。 ○学級増により、教室の使用が限られている。 (課題) ○校舎リフレッシュ工事に伴い、教職員の業務が増大しているのと同時に、教育活動が制限されている。	・リフレッシュ工事の安全で円滑な実施 ・生徒の安全の確保	①工事関係者との定期的な打ち合わせを行い、工事に関する正確な情報を周知する。 ②工事に関する学校からの要望を適宜伝え、安全と教育活動を確保する。	①工事関係者との定例の打ち合わせが行われ、工事に関する情報が見通しをもって周知されたか。 ②工事に関する要望が適切に行われ、教育活動への支障が最小限ですんだか。	①定時、臨時の打ち合わせを徹底し、計画的に工事を終えることができた。 ②事前確認の段階での要望だけでなく、改善が必要なものについては、施工業者等とその都度協議し、教育環境の維持に努めた。	B	リフレッシュ工事は終了した。新しく制限がなくなった環境においても、施設の瑕疵がないか常に留意していく。	・本太中は、学校の構造上、特に西門や北門からの不審者の侵入など、安全確保に関しては課題が多い。生徒を守るための策を講じるべきである。 ・生徒たちは、リフレッシュ工事で制限された環境の中でも、しっかりと生活をしており素晴らしい。
			①仮設校舎での生活や、登下校の様子を把握し、安全な方策を考える。 ②管理職による毎日の安全確認、教職員の定例の安全点検を行う。	①仮設校舎での安全を確保するためのルールの設定や注意喚起が行われたか。 ②安全点検が徹底され、安全が確保されたか。	①仮設校舎でのルールが設定され、制限された環境であったが、大きな事故はなく過ごすことができた。 ②毎日の安全点検を徹底し、不備な箇所の迅速な修繕を行うことができた。			
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 (現状) ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をテーマに、学校全体で研修を行っている。 ○書籍の紹介や自主的勉強会の実施等、職員間での学び合い、高めあっているという雰囲気がある。 (課題) ○健康で安心してチャレンジすることができる、Well-being な職場環境づくりを図る。	・同僚性と創造を基盤とし、チャレンジを奨励する組織の醸成 ・教職員が健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	①計画的に校内研修を実施するとともに、自主的勉強会の実施を奨励する。 ②外部の研修等に関する情報を共有する仕組みを構築する。	①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られたか。 ②外部の研修等に関する情報を共有することができ、参加が促されたか。	①計画的な校内研修、自主的な勉強会、教員による教育関連書籍の紹介など、教員の学ぶ意欲が高まった。 ②Teams 内に研修チャンネルを立ち上げ、外部の多種多様な研修情報を共有することができた。	A	研究推進委員会で、教職員の多様な要望を取りあげ、学校課題の解決、教職員の資質の向上に努める。また、設定した研修チャンネルを有効に活用し、多種多様な研修を紹介するとともに、参加者が研修の成果を発揮できる環境をつくる。	・学校の先生方は忙しいと感じている。校長先生のリーダーシップのもと、働き方改革を推進していただきたい。
			①ティチャーズ スピリットを示し、考え方、目標、情報の共有を図り、チームとして学校教育活動を展開する。 ②カエル会議の実施等により、ボトムアップ型の働き方改革を推進する。	①職員の同僚性や協働性を高めることができたか。 ②働き方改革が推進され、時間外在校等時間の減少や負担感の軽減が図られたか。	①本校教職員の姿勢を「2025 本太中ティチャーズスピリット」として示し、その都度振り返るようにしている。 ②ボトムアップ型の働き方改革は、満足できる段階には及んでいない。			